

総括整理表			写真1 プロット1		写真2 プロット2	写真3 プロット3
保護林名	鷹取山生物群集保護林					
管轄森林管理局・署名	四万十森林管理署管内					
所在地	高知県梶原町(鷹取山国有林 4048林班ほか)					
面積	94.53 ha					
設定・変更年	設定: 昭和48年4月 変更: 平成30年4月					

保護林概況写真	保護林の概要等	過去のモニタリング実施状況
	<p>保護林の概要 (設定目的)</p> <p>標高約280~750mに位置し、暖温帯に属する。モミが優占し、ツガ等の針葉樹に混じて、ウラジロガシ、イヌガシ、ホオノキ、ユズリハ等の広葉樹が生育している。</p>	<p>結果概要 (調査実施項目・調査手法含む)</p> <p>・森林に目立った衰退はみられない。 ・光環境が充分ではないため後継樹が育っていない可能性が考えられる。 ・ニホンジカの食害による下層植生への影響や剥皮被害を確認。</p>
	<p>モニタリング実施間隔</p> <p>5年</p>	
	<p>法令等に基づく指定概況</p> <p>水源かん養保安林【森林法】</p>	<p>実施時期・回数</p> <p>平成25年度、平成30年度</p>

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	保護林内は、全て天然生林であった。
樹木の生育状況	資料調査/森林詳細調査	いずれのプロットも優占種及び主要な構成種の生育状況に大きな変化はなく、目立つ森林の衰退はみられないと考えられる。現存するツガやモミなどの森林の主要な構成種へのニホンジカによる被害は軽微であると考えられる。
下層植生の生育状況	資料調査/森林詳細調査	下層植生の植被率は、低木層で30-40%、草本層で20%以下であるが、保護林の主要な構成樹種のツガやモミの実生が点在しており、10cmを超える実生・稚樹も比較的多いことから、後継木が生長しつつある状況と考えられる。
野生生物の生息状況	資料調査/動物調査	哺乳類が10科13種、鳥類が21科33種が確認された。自動撮影カメラによる撮影結果は、ニホンジカの撮影割合は高く、性比はオスよりメスの割合が高かった。特定外来生物のソウシチョウが確認された。シカの被害状況調査において、ニホンジカによる食害や糞などの痕跡は少なく、被害レベルは0-1と判定された。
論文等の発表状況	資料調査	四万十森林管理署(2021.齋藤ら)及び森林総合研究所(2021.米田ら)により、保護林内のカシノナガキクイムシに関する調査・研究が実施されている。高知大学(2023.比嘉ら)により、保護林内で着生植物に関する調査・研究が実施されている。
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	管轄する森林管理署が看板の設置等を行い保護・管理されている

評価・課題等	<p>【確認された影響: <b>ア野生鳥獣</b> <b>イ病虫害</b> <b>ウ外来種</b> 工温暖化 オ自然撓乱 カその他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目立つ森林の衰退なし、現存するモミやツガなどの森林の主要な構成種への被害は軽微⇒自然度の高い森林生態系が維持されている</li> <li>主要な構成種の実生及び稚樹が点在 ⇒ 後継木が生長しつつある状況</li> <li>特定外来生物のソウシチョウが確認された</li> <li>ニホンジカの痕跡は少ない(一部にはシカの不適好性植物が繁茂)、後継木も残存 ⇒ ニホンジカによる被害は軽微(過去にシカによる食害の影響を受けて不適好性植物が増加した可能性あり)</li> <li>資料調査により、保護林周辺ではカシノナガキクイムシによる影響を受け、森林の構造が変化(ウラジロガシやスタジイなどでカシノナガキクイムシの穿孔による枯死が確認され、ブナ科樹木の胸高断面積割合が2016年: 22.0%から2020年: 8.5%に低下)していることが報告されている。</li> </ul> <p>⇒ <b>保護林内のナラ枯れの発生状況を把握し、カシノナガキクイムシ対策を講じる</b></p>
--------	--

様式-37 総括整理表(案)保護林

総括整理表		写真1 プロット1		写真2 プロット2		写真3 プロット3	
保護林名	西熊山生物群集保護林						
管轄森林管理局・署名	高知中部森林管理署管内						
所在地	高知県香美市(西熊山国有林 32林班い小班ほか)						
面積	478.99 ha						
設定・変更年	設定: 平成173年3月 変更: 平成30年4月						
保護林概況写真		保護林の概要等				過去のモニタリング実施状況	
		保護林の概要 (設定目的)	標高約1,000~1,700mに位置し、暖温帯から冷温帯までの林相の垂直分布を見ることができる。 ダケカンバ、ブナ、ウラジロモミ、コハウチワカエデ、モミ、ツガ、イタヤカエデ、ケヤキ、トチノキ等多様な樹種が生育している。 ツキノワグマの生息が確認されている。			結果概要 (調査実施項目・調査手法含む)	
		モニタリング実施間隔	5年				
		法令等に基づく 指定概況	剣山国定公園第2種特別地域・第3種特別地域、奥物部県立自然公園第2種特別地域【自然公園法】 水源かん養保安林、保健保安林【森林法】 鳥獣保護区特別保護地区・鳥獣保護区【鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律】			実施時期・回数	平成25年度、平成30年度
調査項目	調査手法	結果概要					
森林タイプの分布等状況	資料調査	保護林内は、全て天然生林であった。					
樹木の生育状況	資料調査/森林詳細調査	いずれのプロットも優占種及び主要な構成種の生育状況に大きな変化はなく、目立つ森林の衰退はみられないと考えられる。					
下層植生の生育状況	資料調査/森林詳細調査	下層植生の植被率は、低木層で10~30%、草本層で10%以下であり、林床植生はニホンジカによる食害の影響を受けていると考えられる。 実生調査では、ブナやモミなどの主要な構成樹種が確認されたが僅かであり、高さも10cm未満の種が多く、後継木が生長していないと考えられる。					
野生生物の生息状況	資料調査/動物調査	哺乳類が12科17種、鳥類が17科24種が確認された。 自動撮影カメラによる撮影結果は、ニホンジカの撮影割合は高く、性比はオスよりメスの割合が高かった。 シカの被害状況調査により、下層植生が疎らでシカの嗜好性植物が多い状況、シカの痕跡が多い状況から、被害レベルは3と判定された。					
論文等の発表状況	資料調査	高知大学や森林総研などにより、保護林周辺(さおりが原やカヤハゲなど)は研究のフィールドとして利用されている					
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	管轄する森林管理署が看板の設置等を行い保護・管理されている					
評価・課題等	<p>【確認された影響: <b>ア.野生鳥獣</b> イ.病虫害 ウ.外来種 エ.温暖化 オ.自然攪乱 カ.その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目立つ森林の衰退なし、現存するモミやブナなどの森林の主要な構成種への被害は軽微、目木も多い⇒自然度の高い森林生態系が維持されている</li> <li>低木層及び草本層が貧弱、主要な構成種の実生及び稚樹は少なく、後継木が生長していない⇒下層植生はニホンジカによる食害の影響により、森林の更新適地は維持されていない</li> <li>⇒<b>保護林周辺でのニホンジカの捕獲の促進や防鹿柵を設置し、森林の更新適地を維持することが重要</b></li> <li>ニホンジカの痕跡が多くみられ、嗜好性植物が目立つ⇒保護林内はニホンジカによる食害の影響を受けている</li> <li>⇒<b>状況に応じて、希少性の高い種をニホンジカによる食害から保護することが必要</b></li> </ul>						

様式-37 総括整理表(案)\_保護林

総括整理表			写真1 プロット1		写真2 プロット2		写真3 プロット3
保護林名	石立山生物群集保護林						
管轄森林管理局・署名	高知中部森林管理署管内						
所在地	高知県香美市(別府山国有林 56林班は小班)						
面積	121.56 ha						
設定・変更年	設定: 昭和48年4月 変更: 平成30年4月						

保護林概況写真	保護林の概要等		過去のモニタリング実施状況
	保護林の概要 (設定目的)	高知県西南部の禰原町大字中平から国道439号を約1.5km北上した四万十川の支流北川沿いの山腹斜面に位置する。森林帯は暖温帯林に属している。地形は全般に急峻で、モミの優占した林相であり、ツガ、ウラジロガシ、サカキ等を交えた針広混交林である。標高の低い地域ではモミが、高い尾根筋ではツガが生育する。	結果概要 (調査実施項目・調査手法含む) [Redacted]
	モニタリング実施間隔	5年	
	法令等に基づく 指定概況	剣山国定公園第2種特別地域【自然公園法】 土砂流出防備保安林、保健保安林【森林法】	実施時期・回数 平成25年度、平成30年度

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	保護林内は、全て天然生林であった。
樹木の生育状況	資料調査/森林詳細調査	いずれのプロットも優占種及び主要な構成種の生育状況に大きな変化はなく、目立つ森林の衰退はみられないと考えられる。
下層植生の生育状況	資料調査/森林詳細調査	下層植生の植被率は、低木層で20-40%、草本層で2-50%であり、林床植生はニホンジカによる食害の影響を受けていると考えられる。実生調査では、モミやハリモミなどの主要な構成樹種が確認されたが僅かであり、高さも10cm未満の種が多く、後継木が生長していないと考えられる。
野生生物の生息状況	資料調査/動物調査	哺乳類が13科17種、鳥類が15科34種が確認された。[Redacted] 自動撮影カメラによる撮影結果は、ニホンジカの撮影割合が高かった。 シカの被害状況調査により、下層植生が疎らでシカの嗜好性植物が多い状況、シカの痕跡が多い状況から、被害レベルは3と判定された。
論文等の発表状況	資料調査	高知県により、防鹿柵が設置されており、植生の回復状況等が調査されている
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	管轄する森林管理署が看板の設置等を行い保護・管理されている

評価・課題等	<p>【確認された影響: <b>A.野生鳥獣</b> イ.病虫害 ウ.外来種 エ.温暖化 オ.自然攪乱 カ.その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目立つ森林の衰退なし、現存するモミやブナなどの森林の主要な構成種への被害は軽微、目木も点在 ⇒ 自然度の高い森林生態系が維持されている</li> <li>低木層及び草本層が貧弱、主要な構成種の実生及び稚樹は少なく、後継木が生長していない ⇒ 下層植生はニホンジカによる食害の影響により、森林の更新適地は維持されていない</li> <li>⇒ <b>保護林周辺でのニホンジカの捕獲の促進や防鹿柵を設置し、森林の更新適地を維持することが重要</b></li> <li>[Redacted]</li> <li>ニホンジカの痕跡が多くみられ、嗜好性植物が目立つ ⇒ 保護林内はニホンジカによる食害の影響を受けている</li> <li>⇒ <b>状況に応じて、希少性の高い種をニホンジカによる食害から保護することが必要</b></li> </ul>
--------	---